

「ごみと資源の総量」の実績について

令和2年度上半期（4～9月）における、家庭系と事業系を合わせた「ごみと資源の総量」は、約61万トンとなり、前年の同時期に比べ、約4,300トン（0.7%）減少しました。

1 家庭系の「ごみと資源の総量」

「ごみと資源の総量」は、約45万トンで、前年の同時期に比べ、約1万9,000トン（4.5%）増加しました。

内訳として、ごみ量は、約1万4,000トン（4.6%）増加、資源化量は、約5,400トン（4.1%）増加しました。

2 事業系の「ごみと資源の総量」

「ごみと資源の総量」は、約17万トンで、前年の同時期に比べ、約2万3,000トン（12.4%）減少しました。

内訳として、ごみ量は、約2万3,000トン（14.3%）減少、資源化量は、約700トン（2.3%）減少しました。

【参考】令和2年度上半期（4～9月）の「ごみと資源の総量」（速報値）

	ごみと資源の総量【単位:トン】						
		家庭系			事業系		
			ごみ量	資源化量 ^{※1}		ごみ量	資源化量 ^{※2}
令和2年度	613,790	447,938	311,376	136,562	165,852	136,052	29,800
令和元年度差	▲ 4,286 (▲0.7%)	19,173 (4.5%)	13,790 (4.6%)	5,383 (4.1%)	▲ 23,460 (▲12.4%)	▲ 22,758 (▲14.3%)	▲ 702 (▲2.3%)
令和元年度	618,077	428,765	297,586	131,179	189,312	158,810	30,502
平成29年度 (ヨコハマ3R夢プラン 推進計画(2018～2021) 基準年度)	619,672	437,407	301,262	136,145	182,265	157,828	24,438

※1 家庭系の資源化量は、行政が回収した資源化量と資源集団回収量の合計です。

※2 事業系の資源化量は、事業者が生ごみやせん定枝を資源化した量の合計です。

※ () 内数値は、令和元年度との比を示しています。

※ 表中の数値は整数表示をしているため、算出した結果が一致しない場合があります。